

このナレッジ・レポート No. 2 追補は、ナレッジ・レポート No. 2 (2021年12月) で論じた日本の留学生事業への COVID-19 の影響に関し、2024年3月時点の状況を公開情報から分析し報告するために作成されたものである。

追補：日本の留学生受入れへの COVID-19 の影響

仲里ローレン 萱島信子

COVID-19 以降の日本への学生移動

世界保健機関 (WHO) が COVID-19 の大流行による世界的な公衆衛生上の緊急事態を宣言してから4年が過ぎた。この間に、COVID-19 は700万人以上の命を奪い (WHO, 2024)、世界的な経済危機を引き起こし (World Bank, 2022)、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に狂いを生じさせた (Hughes et al., 2021)。高等教育の領域では、COVID-19 は、高等教育機関の管理運営、教育と学習の形態や方法、研究と国際化のさまざまな側面に広範な影響を及ぼした (UNESCO, 2022)。COVID-19 はまた、特にオンライン教育の領域において、新たなやり方や考え方を開き、革新と再生を引き起こした (UNESCO, 2022)。

この短いナレッジ・レポート補論は、2021年12月に発表された JICA 緒方貞子平和開発研究所ナレッジ・レポート No. 2 「日本の留学生受入れへの COVID-19 の影響と今後の課題」のアップデート版である。COVID-19 の流行開始以降の4年間における日本への学生移動について、最新の留学生データを用いて検証することで、著者は最初の報告書を振り返っている。2021年12月のナレッジ・レポート No. 2 では、COVID-19 期間中、留学生の動向に影響を与える重要な要因として学位取得目的の留学であるかどうかを取り上げた。4年経った今でもこの状況は同じなのだろうか。2019年以降の留学生受入れ状況はどのように変化したのだろうか。

学位取得型留学生と非学位取得型留学生

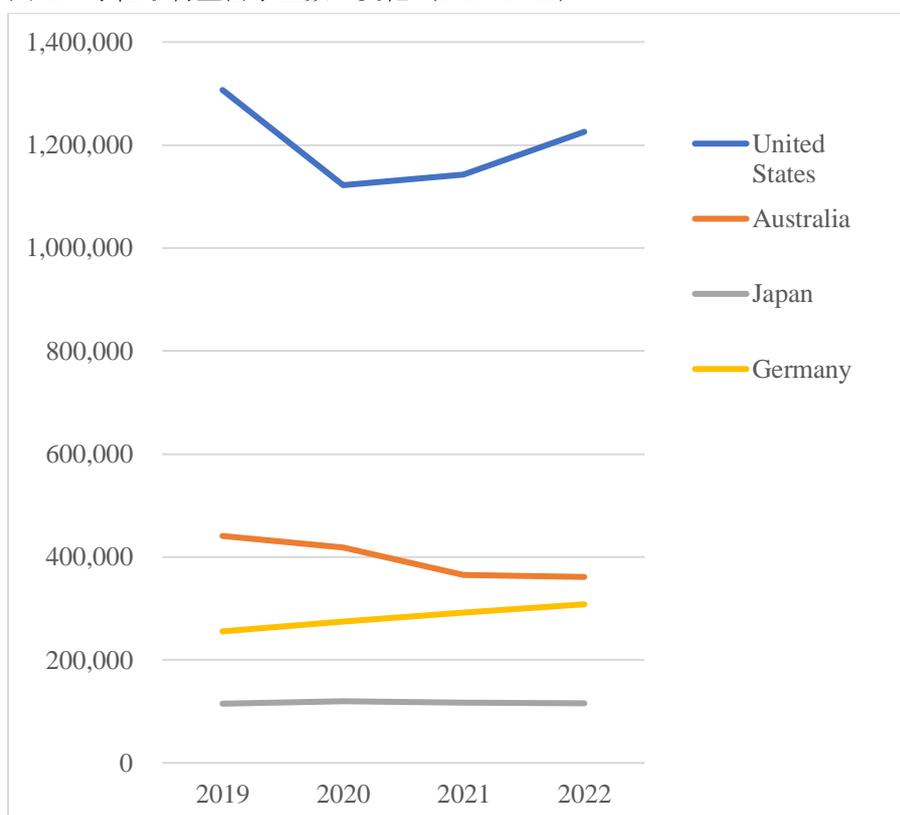
学位取得目的の留学生であるかどうか、パンデミック時の日本への留学意欲に影響を与えたという前レポートの議論は、今回更新された留学生登録データでもほぼ裏付けられた。本補論では、2021年に使用したのと同じ政府データベース¹を用い、4つの軸に沿って検証した：1) 時期 (2019-2022/3年)、2) 留学先国 (主要な留学先4カ国の国別比較：米国、オーストラリア、ドイツ、日本)、3) 就学形態 (学位取得型、非学位取得型)、4) 教育レベル (学部、大学院) である。

¹ United States Immigration and Customs Enforcement, Institute of International Education, Australian Government, 文部科学省 (MEXT), German Academic Exchange Service (DAAD) & German Centre for Higher Education Research and Science Studies (DZHW).

下記の図1と図2は、米国、オーストラリア、ドイツ、日本の4か国に関して、2019年から2022年の学位取得型留学生数と非学位取得型留学生数を比較したものである。これらの図では、学部留学生と大学院留学生は合算されている。

4か国のいずれにおいても、パンデミック期間を通じて、学位取得を目的とした留学生数（図1）は学位取得を目的としない留学生数（図2）よりも変化が少なかった。学位取得型留学生数が安定していたという点は、特に日本に当てはまる。ドイツの学位取得型留学生数は4年間増加し続け、2019年から2022年の間に20%拡大した。米国では、2019年から2020年にかけて学位取得型留学生数が14%減少し、4か国の中で最大の落ち込みを観測したが、2020年以降は反動で増加に転じている。4か国のうち、オーストラリアだけが留学生数の減少傾向が続いており、2019年から2022年にかけて18%減少した。

図1：学位取得型留学生数の変化（2019-2022）



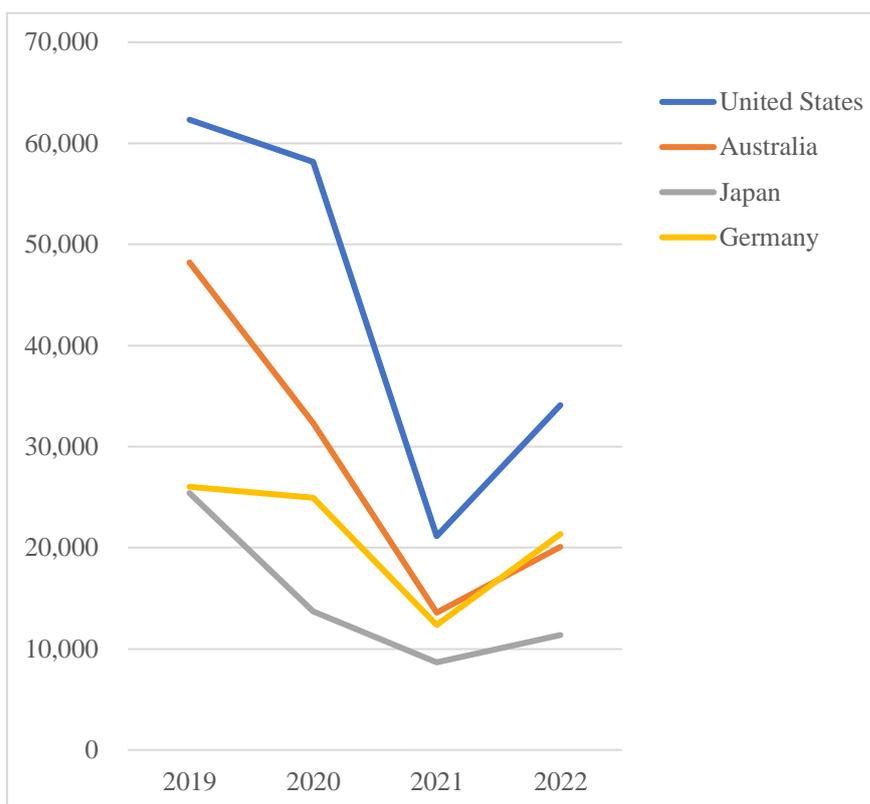
出典：別添参照

各国間で留学生数の定義に一貫性がないため、直接的な比較は難しいが、いくつかの指摘や推測は可能である。第一に、米国の留学生数はF-1学生ビザ数に基づいており、「留学生または交換学生は、米国に入学し、就学プログラムまたは交流プログラムに参加した時点で、留学しているとみなされる」（USICE, 2022, p. 2）。したがって、米国留学生数は、国境規制のために米国に戻れなくなった登録済みの留学生を除き、物理的に米国に滞在している学生のみをカウ

ントしている。さらに、このデータは学生個人ではなく登録件数に基づいているので、例えば、1人の学生が2つのプログラムに登録していれば、登録者数は2人とカウントされる。一方、オーストラリアのデータは、「入学者数は通常、学生ビザでオーストラリアに滞在している学生を指すが、2020年には、COVID-19の渡航制限により、入学者数は学生が現在オーストラリアに滞在していることを確認するものではない」(Ferguson & Spinks, 2020, p.2)ため、物理的な入国を前提としたものではなかった。ドイツと日本の留学生登録の定義はより不透明であるが、ドイツの場合、173の大学の国際担当部局を対象におこなわれた2020年の調査では、70%以上の大学が「入国できない留学生」のために「遠隔教育クラスによるオンライン入学」を提供していることが明らかになった(Kercher & Plasa, 2020, p.15)。これは、ドイツに入国できない留学生も、大学によっては留学生としてカウントされていたと考えられる。日本では、パンデミック時に国境がほぼ完全に閉鎖されたため、日本に来ることができなかった学生も、授業がオンラインで提供されていれば、留学生としてカウントされていたと推測される。

パンデミックの期間中、学位取得のための入学者数は上位留学先国で比較的安定していたものの、非学位取得型の留学生数はより大きな影響を受けた(図2)。これは特に米国とオーストラリアで顕著で、2020年から2021年にかけてそれぞれ約64%と58%の学生数減少が見られた。一方、日本とドイツは、2019年から2021年にかけて、より緩やかな減少にとどまった。さらに、4か国すべてにおいて非学位取得型留学生数は2021年以降増加しているが、いずれもまだパンデミック以前のレベルには達していない。

図2: 非学位取得型留学生数の変化(2019-2022)



出典：別添参照

2021年12月のナレッジ・レポートでは、COVID-19のパンデミックの間、留学生受入れに影響を与える重要な要因として、留学目的が学位取得であるかどうかを論じた。学位取得型の留学生数は比較的横ばいで推移している一方、非学位取得型の留学生数の変動はより大きいので、この議論は4年間のデータを通じても当てはまるようである。以前に論じたように、留学生数の変動はCOVID-19パンデミック中の交換留学プログラムの実施状況の変化に影響されていると思われる。ドイツの場合、173大学を対象とした2020年の調査では、45%の大学は2020年夏学期の交換留学プログラムを中止せず、すべての交換留学プログラムを中止した大学は22%にとどまった（Kercher & Plasa, 2020）。これは、IIE（Institute of International Education）が調査した大学の83%が2020年夏学期の交換留学プログラムを完全に中止した米国のケースとは対照的である（Kercher & Plasa, 2020）。

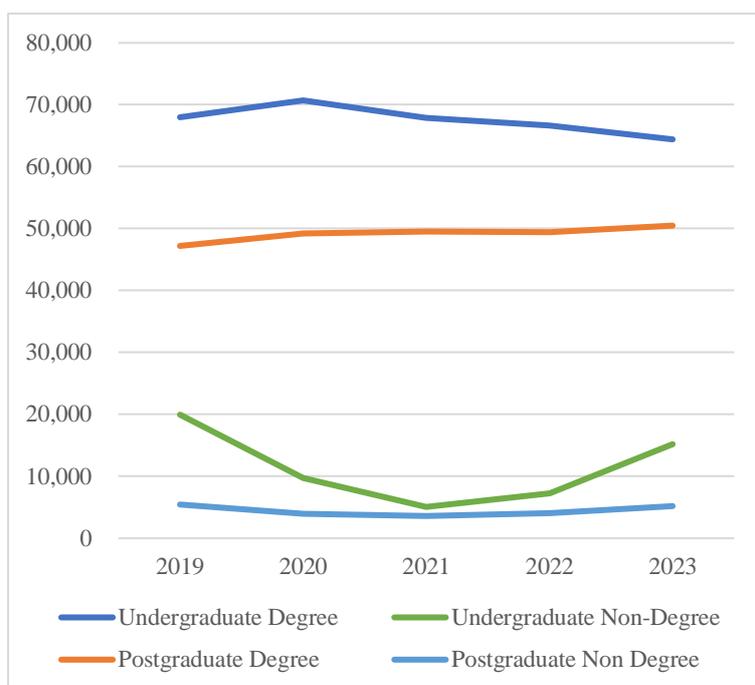
日本の事例：教育段階と学位取得目的の有無

学位取得型・非学位取得型と学部・大学院に分けて留学生数がどのように変化しているかを知らるために、日本のケースを詳しく見てみよう。次の図3は、学位取得型の学部留学生数と大学院留学生数（それぞれ濃い青とオレンジの線）とともに、非学位取得型の学部留学生数と大学院留学生数（それぞれ薄い緑と薄い青の線）を示したものである。学位取得目的の留学生に

関しては、学部では減少傾向にあり（2019年～2023年におよそ5%減少）、大学院では増加傾向にある（2019年～2023年におよそ7%増加）ものの、学部と大学院の間で増減の程度に極端な違いは見られなかった。

しかし、学位取得を目的としない学生については、学部レベルと大学院レベルの留学生数に劇的な差が見られる。2021年12月のナレッジ・レポートで論じたように、これはパンデミック時に多くの交換留学事業が急遽中止されたためと思われる。非学位取得型の学部留学生数を示すグラフ（緑色の線）がほぼ左右対称にカーブしているのは、パンデミック時の留学生激減から急速に回復していることを示しており、交流プログラムが実際に再開されたことを示唆している。一方、大学院レベルの非学位取得型留学生数に変動がないのは、大学院レベルでは、交換留学生ではなく、学位取得を目的としない研究生がこのカテゴリーの多くを占めていることを反映しているのではないかとと思われる。

Figure 3: 日本の学位取得型と非学位取得型の学部・大学院留学生数（2019-2023）



出典：別添参照

上記のデータは、4年間にわたった COVID-19 パンデミックによる混乱に対して、日本の留学生数が比較的堅調であったことを示しているが、これはおそらく多数の学位取得型留学生の存在と日本の大学における国際的なプログラムの多様化も一因であろう。このような安定の背後にある理由を深く掘り下げることは、この短い研究補論の範囲を超えているが、筆者は、提示されたデータがさらなる研究と議論のための足がかりとなることを願っている。

References

Ferguson, H. & Spinks, H. (2020). Overseas students in Australian higher education: A quick guide. Commonwealth of Australia.

https://parlinfo.aph.gov.au/parlInfo/download/library/prspub/6765126/upload_binary/6765126.pdf

Hughes, B.B., Hanna, T., McNeil, K., Bohl, D.K., & Moyer, J.D. (2021). Pursuing the Sustainable Development Goals in a World Reshaped by COVID-19. Denver, CO and New York, NY: Frederick S. Pardee Center for International Futures and United Nations Development Programme.

https://sdgintegration.undp.org/sites/default/files/Foundational_research_report.pdf

International Association of Universities (IAU). (2023). *Shaping Teaching & Learning and Internationalization beyond the Pandemic*. International Association of Universities.

https://www.iau-aiu.net/IMG/pdf/final_shaping_teaching_learning_and_internationalization_beyond_the_pandemic_2_1_.pdf

--- (2022). *Higher Education One Year into the COVID-19 Pandemic*. International Association of Universities. https://www.iau-aiu.net/IMG/pdf/2022_iau_global_survey_report.pdf

Jensen, T. (2019). *Higher Education in the Digital Era*. International Association of Universities. https://www.iau-aiu.net/IMG/pdf/technology_report_2019.pdf

Kercher, J. & Plasa, T. (2020). COVID-19 and the impact on international student mobility in Germany. German Academic Exchange Service (DAAD).

UNESCO. (2022). *Resuming or Reforming? Tracking the global impact of the COVID-19 pandemic on higher education after two years*. UNESCO International Institute for Higher Education in Latin America and the Caribbean.

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000381749>

US Immigration and Customs Enforcement (USICE). (2022). *ICE Clarifies Continuation of March 2020 Guidance for the 2022-23 Academic Year*.

<https://www.ice.gov/doclib/sevis/pdf/bcm2205-03.pdf>

World Bank. (2022). *World Development Report: Finance for an Equitable Recovery*.

World Bank Group.

<https://openknowledge.worldbank.org/server/api/core/bitstreams/e1e22749-80c3-50ea-b7e1-8bc332d0c2ff/content>

World Health Organization. (2024). WHO COVID-19 dashboard.

<https://data.who.int/dashboards/covid19/deaths?n=c>

Appendix

以下の表は、本文に掲載した図を作成するために使用したデータである。

Table 1

Country Comparison of Tertiary International Enrollment Shifts by Degree Status 2019-2022

	Degree-seeking (BA, MA, PhD)			Non-degree-seeking ¹		
	2019	2020	% change	2019	2020	% change
United States ²	1,306,869	1,121,981	-14.10%	62,341	58,201	-6.60%
Australia ³	440,824	418,375	-5.09%	48,219	32,330	-32.95%
Japan ⁴	115,154	119,890	+4.11%	25,411	13,683	-46.15%
Germany ⁵	255,478	274,285	+7.36%	26,035	24,959	-4.13%

	Degree-seeking (BA, MA, PhD)			Non-degree-seeking ¹		
	2020	2021	% change	2020	2021	% change
United States ²	1,121,981	1,142,352	+1.82%	58,201	21,151	-63.66%
Australia ³	418,375	365,714	-12.59%	32,330	13,589	-57.97%
Japan ⁴	119,890	117,474	-2.02%	13,683	8,667	-36.66%
Germany ⁵	274,285	292,115	+6.50%	24,959	12,363	-50.47%

	Degree-seeking (BA, MA, PhD)			Non-degree-seeking ¹		
	2021	2022	% change	2021	2022	% change
United States ²	1,142,352	1,226,231	+7.34%	21,151	34,131	+61.37%
Australia ³	365,714	361,247	-1.22%	13,589	20,067	+47.67%
Japan ⁴	117,474	116,094	-1.17%	8,667	11,370	+31.19%
Germany ⁵	292,115	308,124	+5.48%	12,363	21,354	+72.73%

注：上記 Table 1 は、各国の留学生統計をもとに、筆者が「学位取得型留学生」と「非学位取得型留学生」に分類して作表したものである。留学生の定義や内訳が異なる複数の出典から得たデータを使用しているため、若干のデータの不整合（下記注）が含まれることに留意されたい。

¹ 職業プログラムやサーティフィケート・プログラム在籍者を除く。

- ² 学位取得型学生数は、準学位プログラムに在籍する学生を含む。
- ³ 学位取得型留学生数は、グラジュエート・サーティフィケート・プログラムやグラジュエート・ディプロマプログラムの学生、修士レベルの科目履修生や研究生、大学院入学前プログラム学生を含む。
- ⁴ 学位取得型留学生数には正規課程登録学生数を、非学位取得型留学生数にはそれ以外（科目等履修生・聴講生・研究生・専攻科学生・別科学生）の学生数を掲げている。
- ⁵ 各年の冬学期のデータのみ。

出典：次のデータから筆者作成。 United States Immigration and Customs Enforcement (2020, 2021, 2022, 2023); Institute of International Education (2024); Australian Government (2024); 文部科学省（日本・MEXT）(2020a, 2020b, 2021a, 2021b, 2022a, 2022b, 2023a, 2023b); German Academic Exchange Service (DAAD) & German Centre for Higher Education Research and Science Studies (DZHW) (2020, 2021, 2022, 2023).

表2 日本の大学における留学生数の推移（2019～2023年度）

		2019	2020	増減
大学 (UG)	大学合計	87,911人	80,409人	-8.53%
	学位取得型留学生 (学部)	67,949人 (48%)	70,709人 (53%)	4.06%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生・専攻科学生・別科学生)	19,962人 (14%)	9,700人 (7%)	-51.41%
大学院 (PG)	大学院合計	52,645人	53,164人	0.97%
	学位取得型留学生 (研究科)	47,205人 (34%)	49,181人 (37%)	4.19%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生)	5,449人 (4%)	3,983人 (3%)	-26.90%
総計		140,565人 (100%)	133,573人 (100%)	-4.97%

		2020	2021	増減
大学 (UG)	大学合計	80,409人	72,985人	-9.23%
	学位取得型留学生 (学部)	70,709人 (53%)	67,919人 (54%)	-3.95%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生・専攻科学生・別科学生)	9,700人 (7%)	5,066人 (4%)	-47.77%
大学院 (PG)	大学院合計	53,164人	53,156人	-0.02%
	学位取得型留学生 (研究科)	49,181人 (37%)	49,555人 (39%)	0.76%

	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生)	3,983人 (3%)	3,601人 (3%)	-9.59%
総計		133,573人 (100%)	126,141人 (100%)	-5.56%

		2021	2022	増減
大学 (UG)	大学合計	72,985人	73,956人	1.33%
	学位取得型留学生 (学部)	67,919人 (54%)	66,691人 (52%)	-1.81%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生・専攻科学生・別科学生)	5,066人 (4%)	7,265人 (6%)	43.41%
大学院 (PG)	大学院合計	53,156人	53,508人	0.66%
	学位取得型留学生 (研究科)	49,555人 (39%)	49,403人 (39%)	-0.31%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生)	3,601人 (3%)	4,105人 (3%)	14.00%
総計		126,141人 (100%)	127,464人 (100%)	1.05%

		2022	2023	増減
大学 (UG)	大学合計	73,956人	79,664人	7.72%
	学位取得型留学生 (学部)	66,691人 (52%)	64,418人 (48%)	-3.41%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生・専攻科学生・別科学生)	7,265人 (6%)	15,246人 (11%)	109.86%
大学院 (PG)	大学院合計	53,508人	55,650人	4.00%
	学位取得型留学生 (研究科)	49,403人 (39%)	50,487人 (37%)	2.19%
	非学位取得型留学生 (科目等履修生・聴講生・研究生)	4,105人 (3%)	5,136人 (4%)	25.77%
総計		127,464人 (100%)	135,314人 (100%)	6.16%

出典：文部科学省（2020a, 2020b, 2021a, 2021b, 2022a, 2022b, 2023a, 2023b）のデータから筆者作成。

注：日本学生支援機構（JASSO）からも留学生に関する詳細な統計が公表されているが、ここでは、文部科学省の学校基本調査に基づく大学と大学院の留学生数を示している。従って、日本語学校、専修学校専門課程、短期大学、高等専門学校の留学生数を含まない